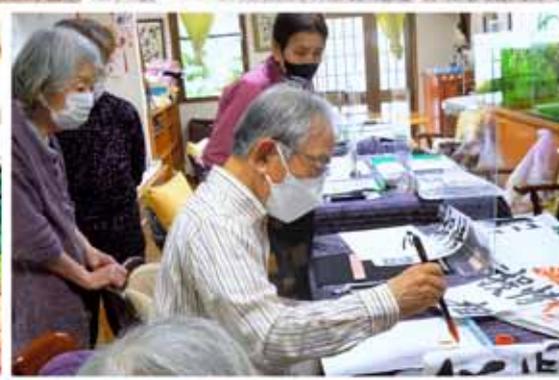
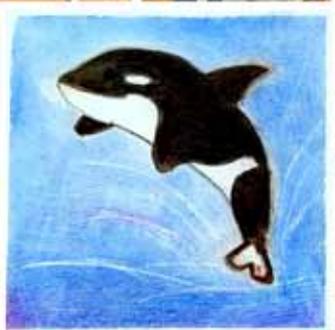


# 投情相

松枝



◆ 主な活動と空状況 [5/10] 現在

第1ももたろう 1人定員	月 満	レクリエーション	第2ももたろう 9人定員	月 空	アート制作
	火 空	民謡・語り		火 満	手芸(押絵)
	水 満	アコーディオン・体操		水 満	アイロンビーズ
	木 空	書道		木 空	書道
	金 満	生演奏/マジック		金 満	アウトドア
土 満	健康体操	土 満	制作		

※「空」は定員に余裕があります。「満」であっても、ご予約をお願いします。

「食べ物に気をつけ、散歩もよくしているのに、骨折したのはどうしてかしら？」と。確かに、買い物などの家事中に圧迫骨折をする女性は多いそうです。私もその話を聞いて、「骨密度」を測ってもらったところ、思ったより良い数値が出て安心しました。簡単に数値が出ますので、定期的に測ってもらう習慣はいかがですか？

デイサービス  
**ももたろう**  
momotaro

東京都府中市矢崎町 2-3-5  
TEL 042-366-5248  
FAX 042-366-5239  
WEB <http://mtaro.jp>  
事業者番号:1373801685

# 人は変わる、幸せのために。

シリーズ  
「わたしの半生」



ケアプランも  
訪問サービスも  
ももたろう

生まれは中野区。きょうだいは私・妹・弟2人の4人で、今では私一人だけ。中野の記憶は無く、私が3歳の時に府中へ引っ越してきた。母は専業主婦で、強く厳しい人だった。仕事なのかわからないが、よく着物を縫っていた。それでも「覚えなくていいよ」と、教えてもらう事も無く、手に職は何も無い。ハンサムで寡黙、優しく父は、お巡りさんをしていた。仕事のストレスが多かった為か、いつもお酒を飲んで帰ってきていて、戦時中もそれは変わらなかった。小学校低学年の頃に迎えた戦争。父方の実家が農家で、父は自転車を漕いで食べ物を貰いに行っていたため、食料難という事も無く特別苦労したという思い出はない。八王子への空襲を、避難した家の外から遠目に見ていた記憶がある程度だ。お巡りさんはストレスだけでなく、転勤も多い仕事だったため、父は戦争が終わってから公務員試験を受け、東京都地方事務所の公務員になった。転職してから、飲んで帰ることはなくなった。

府中では宮西町の戸建てに、結婚するまで家族と共に住んでいた。神代高校を卒業後、18歳から実家近くの府中市役所市民課に勤めだした。小ぶりの木造の市庁舎に訪れる市民は多くなく、大らかで忙しくはなかった。その後、同じ職場で同い年の男性と24歳で結婚。実家の前の借家に空きがあったので、そこに移り住んだ。男の子を一人もうけた後、30歳まで市役所勤めを続け、退職。子供が3歳の時にローンを組んで、多摩川の近くにある現在の家に転居した。息子は一人っ子だが「一人っ子だから…」と周囲に言われるのが嫌で、息子には厳しく教育した。あまり褒める事もなく、今思えば愛情の無いような厳しい育て方をしてしまった。

主人はお酒も飲めない真面目な人で、職場へも歩いて通っていた。主人との思い出は、定年退職前後に二人で色々な所へ旅行した事。旅好きの主人の後を、いつもついて行くだけだが、海外へも行った。忘れてしまったこともあり、特にどこが良かったとは言えないが、美味しいものを食べるのが好きで、旅行中は台所仕事もしなくてよいのが嬉しかった。甘いものが好きだった主人は糖尿病を患い、70歳の時に亡くなった。大切なものは失って初めてそれに気付くというが、正にその通りだった。

現在は息子夫婦と二世帯住宅に住んでいる。孫2人は消防士と看護師という立派な職に就いて独立していった。息子夫婦も働いているため、自分の食事は一駅電車に乗り、是政のスーパーへ週に1回ぐらい買い出しに行っている。主人と似て私も甘いものが好きで、ついお菓子を買って過ぎてしまう。月に一度は息子が車を出してくれ、息子と二人でいつもは食べられないようなラーメン、餃子、日本食などを食べて、買物にも連れて行ってくれる。たまに息子夫婦から差し入れも貰っていて、食事の心配をしなくて良いのは嬉しい。先日足がむくんだ際は、看護師のお嫁さんが診てくれ気遣ってくれた。飲んでいた薬が原因とのことで、その薬を飲むのをやめると、足のむくみはだいぶ良くなった。

今年の2月から土曜日だけ“ももたろうさん”へ通い始め、5月から“ももたろうさん”に、火・木・土曜日の週3回通っている。それまで、週1回ずつ3カ所の通所サービスを利用していた。先に利用していた2カ所が運動中心の通所サービスだったのを、“ももたろうさん”一本にする事になった。元々、家から出るのが嫌で、大勢の人との交流も苦手だった私。だからケアマネジャーさんが運動中心の通所サービスを勧めてくれたのだと思う。もうこの歳になったから、ちっぽけな拘りは捨てた。先が短いから、いつでもオープンでいようと想った。今では素直にスッと自分から輪に入っていけるようになり、自分から話し掛けるし、困っている人が居ればそっと手を差し伸べられるようにもなった。“ももたろうさん”の木曜日は書道の日で、それこそ小学生ぶりで手が震える。漢語が読めないため、早速本屋さんに行って『漢和辞典』を買ってきた。この歳になって何かを始めるといってもなかなか無い事だと思う。デイでない日は、新聞を隅から隅までくまなく読んでいます。父が新聞好きで、小学校の頃から父を真似て読んでいた名残だ。政治面も大好き。テレビではニュースを見ている。

最近になってようやく話せるようになったのだが、実は“ももたろうさん”には古い顔見知りの方が二人いる。ひとりには昔のテニスの仲間。テニスは、中学時代から就職まで続け、その後子供が大きくなってから近くのテニスコートに通っていた。その時代にプレイした方と何十年ぶりに“ももたろうさん”で再会でき嬉しかった。もう一人は、市役所で働いていた時に同僚だった人。「何となく顔を覚えている」といった感覚だったが、実に50年ぶりの再会。もしかしたら一緒の課で、とても仲良くしてくださっていた方だったのかもしれない。冗談を言い合える“ももたろうさん”は雰囲気も良く、皆さんを見ているだけでも楽しい。現在、86歳。私もだいぶ変わって、何でも許せるようになった。これからも「このままがよい」と思っている。そんな私の現在に、もう悩みは無い。このままの生活が続けばそれは幸せだし、例えいつ死んでも、後悔は、無い。